

福島第一原発事故10周年にあたって (第三弾)

今も積もっている放射線物質

甲状腺エコーでガンの早期発見・治療を

関東子ども健康調査支援基金 甲状腺エコー検査 in 三郷の活動をご存知ですか？ 今回は、クリニックふれあい早稲田 副院長の大場文江先生に福島原発事故と子どもの甲状腺がんについてレクチャーして頂き、これまで先生が活動されてきたことについて、お話を伺いました。

チェルノブイリ原発事故からの教訓



チェルノブイリ原発事故で、子どもの甲状腺がんが増えました。その経験から福島県では子どもたちの甲状腺の状態を把握し健康を長期に見守ることを目的に、事故当時18歳以下で福島県にいた38万人を対象に甲状腺検査が行われました。これまでこの調査で甲状腺がんと診断された人は260人を超えています。放射線が飛散したのは近隣の1都15県に及びます。その他の県でも検査を行うことの必要性も考えねばなりません。私たちの住むこの三郷の地もホットスポットとなったことをご存じの方もいらっしゃると思います。

「甲状腺エコー検査 in 三郷」の呼びかけ

大場文江先生は実際に三郷の土壌の線量を知り、このことを問題と捉え福島原発事故後から「甲状腺エコー検査 in 三郷」の呼びかけ人をされています。

この検査は ※1 「関東子ども健康調査基金」の活動を支援するものです。甲状腺がんは、放射性ヨウ素の取り込み量と関係があることがわかっております。被ばくした当時のみならず、数年後から十数年後にかけて甲状腺がんを引き起こす可能性があります。知らないうちに被ばくしてしまったあの時から、体にどのようなことが起きているかは検査をしてみないとわかりません。

この検査活動は、お子さんや若い世代のご家族の健康を確認する機会となっています。みさと健和病院の内分泌・甲状腺内科医の先生方のご協力があり、6歳から27歳までの方を対象に行われました。現在も2年に1回のペースで開催されています。



甲状腺がんと診断された方に療養費として経済支援

また、大場文江先生は ※2 「NPO 法人 3.11 甲状腺がん子ども基金」にも関わりを持たれています。この団体は、事故後に甲状腺がんと診断された方に療養費として経済支援をしており、近年では受給者の方に妊娠・出産をする方が増えたということで新しいサポートも始めています。

さらに新型コロナウィルス感染拡大に伴い検査や治療に影響のあった方にも支援金サポートを行っています。この団体の活動報告によると福島県の申請者の方は、甲状腺全摘手術を受けた方が15%ですが大規模な検査がなかった県の方は、がんが進展し全摘手術を受けた方が52%に上がります。

甲状腺検査は早期発見・早期治療に寄与していると考えられます。大場文江先生は、今後も10年ほどは甲状腺エコー検査 in 三郷の活動を続けていかれるとのことでした。

※1 「関東子ども健康調査支援基金」[甲状腺検査 茨城 千葉 | 関東子ども健康調査支援基金 \(kantokodomo.info\)](#)子どもたちの健康を守りたいという声を受け2013年9月に立ち上がりました。カンパや医師の協力、ボランティアスタッフの力によって運営されています。

※2 「NPO 法人 3.11 甲状腺がん子ども基金」[NPO 法人3・11甲状腺がん子ども基金 ～子どもたちの未来のために。～ \(311kikin.org\)](#)国の研究機関が発表した放射性ヨウ素拡散シミュレーション図に基づき福島県を含む1都15県の甲状腺がんと診断された方に療養費支援などを行っています。

<インタビュー 原崎真実>

番外編 暮らし、政治と総選挙 私はこう思う

10月31日に衆議院選挙の投開票が行われました。政治と私たちの暮らしや社会生活などについて、総選挙も絡めて二人の職員に率直な意見や感想などを出してもらいました。



Aさん(60歳代) Sさん(20歳代)

1; 普段から国会の動きや国の政治・政策について関心を持っていますか。その理由を教えてください。

A ニュースで報じられるものについては知るように努力しています。政策は私たちの生活に直結しており、知るべき権利と義務があると思います。

S 正直に言うと、あまり関心はありません。政治家の大義名分とか、国民のためにと声をあげているのはとても立派な事だとは思いますが、体現している人はほとんどいないのではないかな？と思います。国民のためと、国のため・国外のため。それぞれやらなくてはいけない事は違うと思います。それを忖度なく正直に話せるようになったら皆楽だろうになあと思いますし、難しい話ばかりで分からない、なんてこともないのにな〜と。

2; あなたが普段の生活について、政治の動きと関連して考えることはありますか。

A 経済、教育、福祉、軍備、社会基盤すべてにおいて考えます。

S 消費税とたばこ税…。自分は喫煙者なので、年々上がっていくたばこ税には涙を流しています。その割に吸える所は減っていく…増やした税金で吸える場所を増やしてください(涙)。そして消費税が上がるたびに高くなっていく日用品やらなにやら…小さいころに30円で買っていた駄菓子が今は60円…うまい棒ですら10円で買えなくなってしまったことに悲しみが止まりません。

3; コロナ禍の中で、様々な対応が求められましたが、その中で感じた事がありますか。

A 飲食店に対する経済的支援の対応の遅さは、海外と比較して大きな差があったと思います。また、医療体制の整備が遅れ、多くの重症患者が自宅待機を余儀なくされ、不安を感じざるをえませんでした。

S 外食や遊びに気軽に行けなくなり、お金が溜まる様になりました。でもそれは経済をまわせないことなんだなあと時々思います。飲食店には補助金が出ているけれど、それでは賄えないからか閉店してしまう店も多く…実際、コロナ前によく行っていた居酒屋が店を畳んでしまいました。自由も何もかも制限され、世間的にピリピリしている人が多いですね。

4; 今回の衆議院選挙でどういうことに関心を持ちましたか。それはなぜですか。

A 与党の獲得議席数に関心を持ちました。実質一党支配が10年続く中で、国民に対する説明が十分行われず、話し合いもなく決定された事項があったからです。

S 関心はあまり持てませんでした。これを期にと母世代の方に色々聞いてみましたが、やはり興味が持てず、頭に入りませんでした。

5; 選挙の結果をどう受け止めましたか。

A 民主主義のあるべき姿が正當に守られるのかを危惧しています。

S 投票しないと変わらない、という意識を一人ひとりが持つことに意味があるのだとは私も思いますが、結局は国が決めたことに則って自分を守っていくしかないのかなあと思います。

6; その他、世の中の動きや政治・政策について自由にお書きください。

A 身近なところでは、今回の選挙結果を見て、頼れるべき野党が育っていないように感じられました。それは



リーダーたる人材の不足でもあるし、政治を自分の事として考えられない教育の不足なのかもしれません。ドイツの若者の投票率は約7割、日本と言えば今回声を上げた人たちがいたにもかかわらず、やっと4割といった状況でした。ドイツでは中学生の頃から政治や選挙を学校で学ぶというのを聞いたことがあります。まずは教育の充実が必要だと考えさせられました。そして日本では、子どもを産み育てる環境整備を最優先事項として考えた方が良いのではないかとも思いました。世界中で巻き起こる災害に歯止めをかけるのもこれからは背負って立つ若者、子どもたちです。今のSDGs(持続可能な開発目標)のムーブメントをお題目に終わらせず、真摯に取り組む政治、政策であって欲しいと願うばかりです。

S 私たち世代、年金生活は出来るのでしょうか…。そういった不安も政治経済に興味なく、関心を持たない自分は声をあげる資格はないと思っていますので、今からコツコツと貯金をしております。今の貯金額は秘密です。

ちょっといい話



精神障がい者支援 実績が評価 表彰される



第68回精神保健福祉全国大会(令和3年10月15日)にて埼玉県の推薦により、当法人が受賞し、記念品(マスクケース)を頂きました。これは、長年の精神保健福祉事業の功績が認められ、厚生労働大臣より表彰されたものです。

医療法人財団アカシア会は「地域の中で患者・利用者とともに歩む」という理念を重ね福祉部全体の活動指針となりました。「精神障がい者地域生活支援センターパティオ」(2003.7)から始まり「地域活動支援センターパティオ」(2006年法制度上の移行)、就労移行支援事業所「ラ・ポルタ」(2012.3)、「ラ・ポルタ分室」(2016.4)と発展させ、社会・歴史の流れ、地域の要請に応え活動をしてきました。

医療・介護・障がい福祉を行う特徴ある当法人であったからこそ認められたことだと理解しています。受賞したからといって慢心せず、これからも謙虚な心で職員一丸となって、地域とともに歩み、支え続けていきたいと思えます。
(福祉部長 山田 一三)

とっておきの一枚



優しく感情豊かで甘えん坊の娘でした。息子のいたずらには、腹いせに夫を噛む賢さ(?)も。今年1月に7年の生涯を閉じましたが、天国から私たち家族をずっと見守ってくれていると思えます。

(ラ・ポルタ分室 加藤明子)



今年の柿はあまくて優しい味がします。おひとつどうぞ。(アカシア訪看 ST)

事業所 あれこれ

認知症対応型グループホーム建設(第二弾)

前号で、認知症対応型グループホームアカシアの家2号館の取り組みや準備状況を報告しました。

来年4月オープンに向けて頑張っています。今回は、イメージがよりわかってもらうために完成予想図と運営方針を掲載します。



<事業運営方針>

- 認知症の人が住み慣れた地域で「その人らしい生活」を安心して続けられるように支援をしていきます。
- 医療機関と連携して日常の健康管理に努め、「その人らしい人生」を支えて、希望する方には終の棲家となるように支援をしていきます。
- 地域の皆さんとのふれあいを大切にして、「ともに歩んで」いきます。
また、地域の人たちからも信頼され喜んでいただけるような地域活動をしていきます。
- 若い認知症の方達には入居しながら働く場をつくり、社会生活の参加を目指していきます。



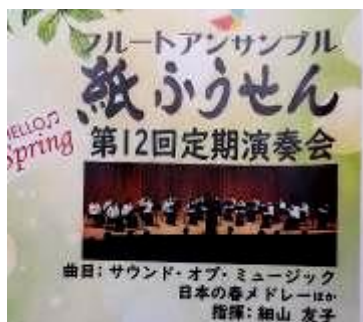
<法人の動向> 「人権」の学び

法人が加入している全日本民医連は、世界的に人権が侵害されている中で、世界の人権保障の歴史と到達を学び、仕事や暮らしの課題を語り合う『人権カフェ』と題した学習運動を呼び掛けています。

施設長会議では、その具体化のために、テーマ別に分かれて人権について学び合っています。シリーズ毎に職場長が分担して読み解き、具体事例を交えながら問題提起をし、分かりやすく資料を作成しました。それを施設長会議において発表しながら共に学び合っています。

更に人権 café と共に作成した資料を基に各職場でも伝え、職員間で改めて人権問題について考えを深めています。
(次回以降に具体的な学びについて掲載予定)

< time ~私の楽しみ~ >



孫の横山裕翔(よこやまゆうと 1 歳 10 か月)、電車が大好きです。言葉を次々覚え、成長の早さを実感します。ワクチン接種ではクリニックの皆様にお世話になっています。

音楽が好きでフルートを演奏します。そのため、吹奏楽、プロとの共演、海外大使館での演奏、ライブハウス、音楽ボランティアなどの機会に恵まれ、今は主にアンサンブルを楽しんでいます。コロナ禍で苦勞した分、印象深い演奏会でした。

他にも、友達との会話は活力になり、寝る前の読書も心地良いですね。

(介護部 福田千栄)

【編集あれや これや】

アカシア会は、今年で20周年を迎えました。医療(外来、訪問診療)、看護(外来、訪問看護)、高齢者支援(ケアマネ、認知症デイ、グループホーム、小規模多機能)、障がい者支援(地域活動、相談、就労移行)と広がりを見せています。

地道な活動の中で、精神に障がいのある方の支援活動が厚生労働大臣から表彰されました。利用者・相談者から「表彰されるほどの事をしているの?」と言われないうちに、嬉しさと同時に身がしまる思いがします。(長)